

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2170103143
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	愛の家グループホーム岐阜
所在地 (電話番号)	岐阜県岐阜市栗野東5-4 (電話) 058-236-2360
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年8月5日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 8 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤	17 人, 非常勤 人, 常勤換算 17

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	1 名	要介護2	11 名		
要介護3	6 名	要介護4	8 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団友愛会岩砂病院 羽島歯科医師会
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員が理念をしっかりと認識して行動しており、認知症ケアに対する意識が高く、優しくゆったりと利用者に接しているホームである。昨年の外部評価の結果を踏まえ、介護計画の作成方法、家族との相談等改善が行なわれるなど、ケアの向上に対しての取り組みにも優れている。3ユニットあるが、それぞれの職員は固定していて、入居者を尊重しユニットごとの個性を持って利用者に合わせてケアを目指している。また通院介助など、地域密着型・小規模多機能性を生かしたケアをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を踏まえ、よく改善が行なわれていた。ケア記録は整備され、家族の確認も行なわれている。また、職員の情報の共有については、フロア会議や申し送り帳で徹底が図られている。救急法の講習会も実施され、行政との連携も努力されている。しかし、書類が多く、重複する記録もあり、作成と確認に時間が取られすぎることから、記録内容の精選と記録形式の合理化を図られることを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに各責任者が評価を真剣に行なっている。責任者のケアに対する高い思いが自己評価に反映されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度運営推進会議が開かれ意見交流がされている。納涼祭にもっと地域の人を積極的に使って欲しいという声を聞いたり、終末ケアについての問題提示をした際、家族の方から自主的に委任状を頂くなど、実際の介護に生きる意見をもらっている。また行政には、生活福祉課介護保険室にもこまめに出向き、連絡を取り合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月1度金銭報告をすると共に、年に3~4回ホーム独自で作成した写真入りのホーム便りを発行して、個々にあわせた報告をしている。また、フロアリーダーが家族に宛てて手紙を書いている。苦情箱は玄関に設置され、苦情窓口も提示されている。系列グループの本社から家族にアンケートが送られ、要望を聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、グループホームでの活動内容を回覧板で回している。その際、何故救急車や消防訓練があるか報せ、ホームに対する理解を深めている。また夏祭りや地域清掃に参加し、地域との交流も心がけている。地震などの災害時、水や食料を確保しているので地域の避難場所に開放したいと伝え、地域との連携を図っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社としての3つの理念を職員が良く理解している。またその理念を元に、簡略化し唱和できるホーム独自の理念を作り、日々確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1、2ヶ月に1度全体会議を行い、ケアの質の向上について話し合いを行なっている。理念は管理者及び職員全員で共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、グループホームでの活動内容を回覧板で回している。また夏祭りや地域清掃に参加し、地域での理解を得よう努めている。地震などの災害時、水や食料を確保しているので地域の避難場所に開放したいと伝えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、よりよく改善していきたいという思いが職員に浸透しており、情報の共有、救急法の講習会の開催、行政との連携などの点で改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議が開かれ意見交流がされている。納涼祭にもっと地域の人を積極的に使って欲しいという声を聞いたり、終末ケアについての問題提示をした際、家族の方から自主的に委任状を頂くなど、実際の介護に生きる意見をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大きな事故に至らないヒヤリハットの事故の度に、介護保険室に説明と話し合いに出向いたり、生活福祉課とこまめに連絡を取り合う等、協力体制を取る努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1度金銭報告をすると共に、3～4ヶ月に1度ホーム独自で作成した写真入りのホーム便りを発行して、個々にあわせた報告をしている。また、フロアリーダーが家族に宛てて手紙を書いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は玄関に設置され、苦情窓口も提示されている。系列グループの本社から家族にアンケートが送られ、要望を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動のダメージを最小限に抑えるため、ユニット毎に職員を固定している。また担当職員の異動に際しては、それぞれが担当する利用者へ挨拶を行い、理解に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、NO. 1～5までの段階別研修を行ない、自由出席の形の社内研修を行なっている。また社外研修を告知したり、資格手当、社外研修手当を設け、資格取得の支援を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと連携を取り、ケア向上委員会、自己対策委員会、サービス向上委員会を職員間で立ち上げ、サービスの質の向上に努めている。また、県のグループホーム協議会に入会し研修会を通じ他事業所との情報交換も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が家庭訪問をして本人や家族と十分話し合いながら意志の確認をすることで、利用者の視点に立って柔軟に対応し、納得のいくサービス提供をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的に介護するのではなく、利用者から教えてもらうような場面の工夫を随所に設定し、常に利用者を人生の先輩として敬う姿勢がみられる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に耳を傾け、意向を把握するよう心がけている。希望や意向の把握が難しい場合は本人の視点に立って考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは利用者毎に担当職員がモニタリングを実施し、本人、家族、職員の意見を十分取り入れながら状況に合わせて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や見直しが必要な場合は、フロー一会議で対応策を検討し現場に反映させている。また6ヶ月の長期目標、3ヶ月の短期目標、ケア内容は毎月見直しを行なっている。	○	毎日記入する書類については、重複する記録を整理し、簡略でわかりやすい記録の仕方を工夫するなど、職員の負担が軽減する取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけの病院や美容院の利用など、出来る限り利用者の希望にそって対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望により、昔からのかかりつけ医、ホームのかかりつけ医、訪問看護師など、複数の医療機関から往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	自然の成り行きから見取りに至ったケースがあり、終末ケアに向けて医師、家族、職員で話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時、排泄時においては、できる限り他の利用者に分からないよう、さりげなくケアするよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や事業所の都合で、利用者の気持ちを損なうことのない様に個別ケアを重視しており、全体的に利用者のペースに合わせて、柔軟な対応ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの利用者の得意を活かし、利用者が自発的に調理や片付けに参加している。また、職員は同じテーブルで同じものを食べながら、必要最小限の介助をしながら、一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人ひとりの体調と希望に沿って、毎日でも入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の中には、携帯電話で株を購入して楽しむ人もいる。掃除・洗濯など生活歴を活かした役割分担をしたり、その人らしい楽しみごとや、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	居酒屋、銭湯、喫茶店、外食、散歩等、可能な限り外出支援を行っている。今後、重度の方をどのように外出支援していくか検討し、支援する取り組みをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室の鍵は開放されている。しかし各ユニットごとの入り口は、階段とエレベーターがあり、転落の危険があるため施錠されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会や地域の方に協力をお願いしている他、非常食や避難所の確保をしている。また、災害時、地域の方に同ホームを避難場所として使ってもらおうなど地域に開放することも伝えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立と、チェック表や個人記録から、食事や水分の確保ができています。またきざみ食等、一人ひとりの状態に合わせて調理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりや廊下、フローには花があり、居室にはゆったりと座れるソファが置かれ、家庭的な雰囲気になっている。今後、和室や掘りごたつなど、くつろぎのスペースの拡大に取り組みたい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具やベットのほか、冷蔵庫等 使い慣れたものが置かれ、一人ひとりの好みにあった物が使われている。		